

小学生選手を県産農畜産物で応援 ～JA全農チビリンピック2015に出展～

「JA全農チビリンピック 2015」(主催：日刊スポーツ新聞社、公益財団法人横浜市体育協会)が5月5日(祝)に日産スタジアムで開催された。37回目を迎えた大会には、小学生約7,000人が集まり、短距離走やマラソン、サッカー、今回新たに加わった「卓球」などの競技に参加した。同大会には「オリンピックやプロスポーツ選手を目指す小学生の夢を後押ししたい」という願いが込められており、五輪メダリストなどの豪華ゲストが多数来場した。JAグループ神奈川は、地元開催であることから、国産農畜産物の力で子供達の食生活を応援する「お楽しみ広場」へ出展した。

五輪メダリストたちと一緒に
「もちつき大会」



◎「お楽しみ広場」でゲストとふれあう

西口ゲートの「お楽しみ広場」では五輪メダリストやプロスポーツ選手などのゲストが参加する「もちつき大会」「大声選手権」などのイベントが開催された。スポーツ競技に参加しなくても、ゲストとふれあえる機会とあって、多くの小学生がイベントに参加した。一部のゲストは司会者と共に広場の出展ブースを巡り、出展者から商品の説明を聞いたり、試食や試飲を楽しんだ。



JA横浜ブースで完熟トマトを試食するゲスト



中央養鶏農協ブースでプリンを試食にニコリ



JA横浜ブースを訪れたカーリング選手たち

◎「お楽しみ広場」で地場産を味わう

「お楽しみ広場」には、スポーツに励む子供達を国産農畜産物の力で応援しようと、全農や関係団体、関連会社が協力し、軽食の販売や、サンプリング(無料配布)などを行った。JAグループ神奈川は、地元JA横浜の野菜や中央養鶏農協の卵など県産農畜産物をPR販売した。JAファーマーズマーケット連絡協議会は、ジュースやドレッシングなどの農産物加工品や、柑橘類、県産米などを販売し、JA直売所商品の魅力をPRした。

「横浜野菜の試食」は子供達に大人気だった。JA直売所ドレッシング4種類の食べ比べを大人も子供も楽しんだ。





県産米キヌヒカリ、小田原産玉ねぎ、寒川産の小松菜、横浜産のカブなど県産食材を集めた「やまゆりポーク丼」「やまゆり牛丼」各 250 杯は昼頃完売した。



中央養鶏農協ブースは、こだわり卵やプリン・マドレーヌなどを販売。「卵のつかみどり」は整理券を求めて長い列ができた。



全農かながわブースは、飲料、乾麺など、県産農産物加工品を販売した。好天に恵まれ、冷えた飲料の売れ行きが好調だった。



J Aファーマーズマーケット連絡協議会ブースでは、県下 J A 直売所のオリジナル商品などを販売。珍しい商品に多くの人が足を止めた。